

平成29年度 法科大学院入学者選抜試験問題

憲 法 ・ 刑 法

1. 試験開始の合図があるまで、この問題用紙の中を見てはいけません。
2. 試験時間は、憲法、刑法の2科目で120分です。
3. 試験中に問題用紙の印刷不鮮明や解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
4. 解答にあたっては、必ず黒か青のペンまたはボールペン(鉛筆は不可)を使用してください。
5. 解答用紙に記入するときには、下記の点に注意してください。
  - (1) 受験番号・氏名を所定欄に記入してください。
  - (2) 解答用紙は、憲法2枚、刑法2枚です。2枚目の解答用紙にも受験番号・氏名を記入し、ホチキスは、はずさないで使用してください。
  - (3) 訂正する場合は、＝線で消すなどして、分かりやすく訂正してください。
  - (4) 解答用紙は、折り曲げたり汚したりしないでください。
6. 問題用紙の余白等は適宜利用してかまいません。
7. 試験終了後、問題用紙は持ち帰ってください。

## 【憲 法】

以下は、架空の事例である。

国立大学法人 Y 大学には、数多くの公認サークルがあり、活発な活動をしている。公認サークルとして認められるかどうかについては、大学の内部規則があり、サークルに所属する学生の人数や活動実績などの要件がある。また、「Y 大学生としてふさわしい活動をする」という誓約書を書く必要もある。

そうして、公認サークルとして認められると補助金や学内施設・部室の貸出など、様々な優遇を受けることができる。公認サークルの中には、学生新聞を発行するサークルも複数あり、日々、政治的な事柄や大学生活についてなどの記事を学生が執筆・編集し、大学内に設置されている公式ブースを通じて、多くの学生・教職員に配布している。

X は、そうした学生新聞を発行する公認サークルに所属する Y 大学の 3 年生である。X は、先日、アメリカ大統領選挙についての記事を書くこととなり、その記事内で、アメリカ大統領選挙が日本に与える影響を論じながら、日米共通の問題として、富裕層を優遇する税制や教育における格差問題があるとした。そして、自分たちが所属する Y 大学も、国立大学でありながら富裕層の子息・子女ばかりであり、そうした問題に関心でいるのはおかしいと述べた。また、Y 大学自体も本来、社会や教育における格差問題などに関心を持つべきであるが、大学当局は、現在の体制に依存するばかりで、そうした感覚はないのではないかというような痛烈な批判をした。その記事が大学当局の目にとまり、学生部長を通じて、「Y 大学生としてふさわしい記事を書くように」との口頭注意を受けたが、X は気にすることなく、その種の記事を書き続けた。その結果、X が所属するサークルの公認は取り消され、大学内に設置されているブースに学生新聞を置くこともできず、活動は停止してしまった。

他方で、同様の公認サークルが発行する A 学生新聞では、アメリカ大統領選挙について政治経済学部の教授にインタビューする記事を載せていたり、別の公認サークルが発行する B 学生新聞においても、教育の格差問題について教育学部の授業を紹介しているが、特に問題なく活動が続けられている。

上記に含まれる憲法上の論点を挙げて、X の立場からどのような憲法上の主張が可能かを述べよ。

[80 点]

## 【刑 法】

以下の文章を読み、問いに答えよ。

- 1 甲女（22歳、身長155センチメートル、体重48キログラム）は、深夜帰宅途中、暗がりの横道から棒状の物をもったX男（25歳、身長180センチメートル、体重75キログラム）が突然飛び出してきたので、暴漢が襲いかかってきたものと思い、ちょうど近くにあった鉄パイプを手にとり、Xが「待て！」というのも無視して、その頭部を殴りつけ、その場から走り去った。Xはその場に倒れ込んで気を失い、全治1か月の傷害（直ちに救護し適切な治療をした場合）を負った。しかし、Xは甲の友人であり、ふざけて甲を驚かすつもりであったにすぎず、棒状の物は傘だった。
- 2 甲は1キロメートルほど全力で走ったが、殴る直前の男の声に聞き覚えがあるような気がして、先の現場に戻ると、友人Xが倒れているのに気がついた。甲は、自分の勘違いで大変なことをしてしまったと思い、持っていた携帯電話で救急車を呼ぶこともできたが、自分の行為が発覚するのをおそれ、このまま放置すると死ぬ可能性が高いと思いつつも、それでもやむを得ないと考え、Xをそのままにして立ち去った。Xは、頭部からの出血と寒さが原因で甲が放置してから2時間後に凍死した。なお、現場は、東北地方の某所、行為当時、12月中旬で気温は0℃であり、人通りはほとんどなかったが、直ちに救急車を呼べば十分にXの命を取り留めることができた。

甲の罪責を論ぜよ。

以上